

2018年12月14日に終了した中野区議会第4回定例会

◆公明党議員団は、「知的障害者生活寮条例を廃止する条例」に、反対し否決しました。

福祉切り捨てとなる「知的障害者生活寮条例を廃止する条例」は、公明党と自民党の反対により否決されました。
生活寮のほか、法外の事業として緊急一時保護事業も行っている「やまと荘」と「やよい荘」は、指定管理の更新時に受託事業者がみつからなかったことを理由に代替案も示さないまま、今年3月で廃止するという前代未聞な条例案でした。利用登録者ほか関係者にその事が周知され

たのは廃止しようとする5ヶ月前。障害をお持ちの当事者の方やご家族の方は、憤慨されています。
会派として廃止反対の討論を行い、区民の声をもっと真摯に聞き、中野区の障害者施策の充実をと求めました。



やよい荘

◆公明党議員団は、「議員定数削減案(条例改正)」を提出。共産、立民などの反対で否決されました。

公明党議員団は議会改革のため、議員も自ら「身を切る改革」と「議員定数を2減(42→40)する条例改正案」を提出しました。
しかし、同案は採決の結果、日本共産党議員団や立憲民主党議員団などの反対多数で否決されました。
採決に先立ち、反対討論を行った共産党は、「多様な区民の民意が適正に反映されるにたる議員定数の確保が必要不可欠」などと主張しましたが、近年、議員定数は42人を下回ることが少なくありませんでした。
その原因の一端は、共産党の議員辞職です。例えば2011年4月の区議選で当選した共産党区議が議員辞職。また、2014年にも共産党区議が辞職しています。

全国各地の議会でも「身を切る改革」が進められているなか、中野区では行財政改革に逆行する結果となりましたが、公明党議員団は議員一人一人が資質を磨き、「区民のために働く議会」実現へ取り組んでまいります。
なお2002年10月第3会定例会において、当時議員定数が44人から42人への議案に反対したのは日本共産党などでした。



中野区議会 第4回定例会

小林 ぜんいち

■議会役職等

- 公明党議員団副幹事長
- 議会運営委員会副委員長
- 建設委員会委員
- 防災対策調査特別委員会委員
- 中野区都市計画審議会委員
- 中野区土地開発公社評議員
- 中野区消防団運営委員会委員

■経歴

- (株)宮本忠長建築設計事務所
- (有)TAF 設計事務所
- 住宅・教育・医療・福祉・文化・宿泊・耐震等設計監

■所属団体等

- (社)日本建築学会正会員
- (社)東京建築士会正会員
- 福祉住環境コーディネーター協会会員
- マンションリフォームマネージャー
- 日本防災士会会員
- 早稲田大学稲門建築会会員
- 中野稲門会会員
- 中野区長野県人会副会長



小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト

ホームページ
<http://kobayashizenichi.com/>



LINE
ID:@vev8938s

Facebook
「小林ぜんいち」で検索

小林ぜんいち NEWS

Zenichi Kobayashi



ご挨拶

日頃より、温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
私のモットーは、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる中野のまちづくりです。
そのために地域を徹して歩き、皆様の一つ一つのお声に耳を傾け、区政の発展にいかして参りました。
高齢者の方からのお声には、中野ゼロ小ホールにエレベーターの設置。
また、昨年8月には中野区同性パートナーシップ制度を全国で9番目にスタートすることが出来ました。
これからも一人の声を大切に、介護や子育ての負担軽減、命を守る防災・減災に全力で取り組んで参ります。

小林ぜんいち



第26号

2019年1月発行
中野区公明党議員団

2018年 第4回 定例会 一般質問から



一般質問(2018.11.30)

第4回 定例会 一般質問項目

- 1.中野駅周辺の
今後のまちづくりについて
 - 1) まちの将来ビジョンについて
 - 2) 中野駅周辺まちづくり
グランドデザインVer.3について
 - 3) 中野駅新北口駅前エリア再整備について
 - 4) まちづくりの合意形成と広場と
賑わい空間について
- 2.地域包括ケアの推進と
地域医療の連携、地域防災について
 - 1) 回復期リハビリ施設と
介護老人保健施設等について
 - 2) 福祉施設等の避難所機能について
- 3.教育行政について
 - 1) 区立小中学校の体育館へ
空調設備設置について
 - 2) 桃花小学校・塔山小学校等の
児童数増加にともなう対応について
 - 3) 桃花小学校のキッズプラザと
学童クラブについて
- 4.業務委託契約について
- 5.大規模工事について

小林ぜんいち 2018年 第4回 定例会

中野駅新北口駅前エリア再整備を問う

小林

- ①アリーナ計画の見直しは規模の議論だけに終始せず、どんなまちにしたいのか議論が足りないと思うが区の見解は。
- ②財産の処分や利活用を、今後どのように進める考えか。
- ③新たに整備される駅前広場を、災害時の視点でどのように考えるか。
- ④景観のまちづくりと賑わいの連続性を考えると、しっかりとした空間が必要と考えるが区の見解は。



中野駅北口

区長

- ①区民の誇りとなるシンボル空間の形成を目指しており、中心となるのが集客交流施設である。中野サンプラザのDNAを継承しつつ、新たな価値を生み出す文化・芸術の発信拠点としたい。
- ②今後策定する中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画で方針を定めていく考えだが、議会において十分に議論したい。
- ③新北口駅前広場の機能と再整備施設の機能が連携することで、地域の防災性向上に寄与すると考える。
- ④道路や広場等の公共基盤と都市開発によって生み出されるオープンスペースとの連携で空間的な広がりを創出していく。

旧中野中跡地の活用を問う

小林

- ①旧中野中(中野1丁目元第九中学校)跡地に地域医療機関を誘致することになっているが、どのような地域医療機関を考えているのか。
- ②高齢者に必要な回復期リハビリ施設、介護老人保健施設などの高齢者福祉施設等を優先し、その施設と連携して地域包括ケアに資する医療機関を誘致すべきではないか。
- ③公有地に施設を誘致する際は地域防災に重要な避難所機能も併せて求めていくべきではないか。



旧中野中跡地

区長

- ①地域包括ケアの推進に資する地域医療機関を誘致することが望ましいと考える。
- ②高齢化の進展状況も考慮し、選択肢の一つとして考える。
- ③誘致された場合は、施設本来の機能を損なわない範囲で避難所確保の協力を求めたい。

一般質問から

区立小中学校の体育館への 空調設備を早期に設置せよ

小林

- ①空調設備の設置方法はいろいろ考えられるが、どのような方法で設置していくのか。
- ②都の補正予算に組み込まれた補助事業制度を活用すべきと考えるが、いつまでに、どのように設置する計画か。

教育委員会次長

- ①工事、リース両方の設置を考えている。また電気、ガスの方式も各校に適した空調設備を選択する。
- ②補助制度を有効活用し、早期実現に向けて取り組む。具体的な計画はまとも次第示す。

学校再編計画の検証と見直しを

小林

- ①桃花小学校、谷戸小学校、平和の森小学校などについては普通教室や給食室の増築整備が必要となっていると聞く。
学校再編にあたっては、児童数の増加に伴う対応をどのように考えているのか。
- ②長期的な視点で学校再編計画の検証と必要な見直しについてどのように考えているのか。

区長

- ①生徒数、学級数については、毎年度推計値を更新し、統合予定校の施設整備内容の見直し等を適宜行い、確実に良好な教育環境を確保できるよう対応していく。
- ②第2次再編計画の完了する2023年度の時点で、課題等の検証を行い、将来に向けた見直しの必要性など方策を明らかにしたいと考える。



平和の森小学校



谷戸小学校



桃花小学校



塔山小学校

学童クラブの整備と施策展開を

小林

- ①桃花小学校区内のキッズ・プラザ、学童クラブは、多くの児童がおり、不足が懸念される。桃花小学校の学童クラブの整備は、今後どう対応するのか。
- ②保護者の要望や地域特性に応じた運営をおこなう民間事業者の独自の取り組みを奨励し、長期的な視点で施策展開してはどうか。



キッズプラザ桃花

区長

- ①学校外への民間児童クラブの設置等の対応が必要であると認識している。
- ②放課後児童健全育成事業の基準を満たした上で、学習支援など多様なニーズに応じた特徴ある運営を行う事業者の参入について働きかけたい。

業務委託契約について

小林

- ①契約履行途中での予期せぬ事情により契約内容の変更の場合に、受注者側の不利益とならぬよう、事業の進捗に応じ、仕様の変更及び契約金額の増額に適切に対応すべきではないか。
- ②委託契約においても、指定管理業務と同様にガイドラインを策定し、契約条件や品質の確保を図るべきではないか。

区長

- ①契約変更や追加発注に柔軟に対応するよう更に努めたい。
- ②発注事務の適切な実施とあわせ、契約の実務などを作成し、事業所管に対して、適切な契約手続きについて周知している。